

保育環境評価スケール（ECERS）を用いた保育環境の見直し

発表者：尼崎市私立幼稚園連合会研究部

認定こども園 七松幼稚園 亀 山 秀 郎

みのり幼稚園 松 本 宜 泰

認定こども園 立花愛の園幼稚園 木 曾 真由香

認定こども園 関西国際大学付属 難波愛の園幼稚園 辰 巳 裕 子

武庫からたち幼稚園 三 木 理 恵

1 はじめに

令和6年度の尼崎市私立幼稚園連合会研究部では、大阪総合保育大学大学院 埋橋教授をお招きし、「保育環境評価スケール（ECERS）：法律文化社」を用いた往還型の連続研修を行った。各園の保育者が保育環境を本スケールに基づき見直し、改善する事で子どもたちの活動や保育内容の変化を共有・観察・検討した。

本発表では、保育環境評価スケールを用いる事前事後の変化について、研究委員の3園が発表する。

2 研究方法

- ① 埋橋教授による「保育環境評価スケール」の解説を聴講し、スケールの成り立ち、サブスケールの考え方と共に保育実践における活かし方について学び、研修会場である七松幼稚園の保育室を見学しながら実際にスコアシートでチェックを行った。
- ② 4グループに分かれ、各園の保育環境の写真を事前に撮影して持ち寄った。そして、その保育環境で活動する子どもたちの様子や課題点について、それぞれの保育者と共に話し合った。その後「保育環境評価スケール」を用いて個々に確認し合い、スケールの評定点を付け合った。
- ③ 保育者はサブスケールのいずれかの項目に注目した保育環境の写真を使って、写真を見ながらスケールの評定の説明を行い、その説明に対して埋橋教授が他のサブスケールとの結びつきや、評定点を高くする視点についてコメントを行った。
- ④ 保育者は②③を繰り返し行い、「保育環境評価スケール」をもとに評定点が上がるよう保育環境を見直し・改善する事で、子どもたちの活動や保育内容の変化を指定様式に作成した。そして、保育者はその様式をもとに事前事後の子供の様子や、気づきの変化について説明を行った。その報告をもとに、埋橋教授による他園の実践紹介を聞き、今後の保育の展開について助言を受けた。本研究では研究委員が集まり、2学期に4回実施した。

例えば、サブスケールとして「空間と家具」にある「子供に関係する展示」では、「①不適切、②最低限、③良い、④とても良い」があり、以下のように最低限から良いにかけて評価項目が違う。

最低限	良い
クラスの子供の写真など適切な内容の展示があり、不適切な内容の展示がない。 (例：色のきれいなポスター/絵図やグラフ)	子供のための多くの展示が保育室全体にある。
	展示のいくつかは子供の現在の興味に基づくトピックに関連している。 (例：クラス内で話し合われている話題についての写真/季節ごとの写真/子供が参加した行事の写真)

最低限	良い
最低2点の子供の造形作品が展示してある。	展示の3分の1程度は子供の個性が現れた作品である。
保育者は観察時間中に少なくとも1度、展示物について話す。	保育者は展示物について、自由遊びの間/または決まったやり方で、子供が興味をもつように最低2度異なる場面で話す。

上記の表では、「良い」だけ1つ多くの評価項目がある。これは展示が、保育とより関係しているものになっているかが評価項目として挙げられている。展示に関する保育環境を見直す際には、これらの観点を指標として改善を行うことができる。この保育環境評価スケールは、サブスケールとして「空間と家具」は7項目、「養護」は4項目、「言葉と文字」は5項目、「活動」は11項目、「相互関係」は5項目、「保育の構造」は3項目に分かれている。

保育者は、研修中に他の保育者と共に協議する中で、できるサブスケールの項目から改善方法を模索して、実践に生かしている。なお、研修⇔実践を繰り返すことを往還型研修という。

【書籍案内】



書 籍 名：新・保育環境評価スケール①【3歳以上】
著 者：テルマ・ハームス / リチャード・M.クリフォード
デビィ・クレア 著 / 埋橋 玲子 訳
発行年月：2016年10月

法律文化社（書籍紹介ページ）

【理解を深めるにはQRコードの動画を視聴して下さい】



はじめての保育環境評価スケール入門編 ①
「それって何？」



はじめての保育環境評価スケール入門編 ②
「とりあえずスコアリング」



はじめての保育環境評価スケール入門編 ③
「好きなところから：絵本」



やってみる保育環境評価スケール実践編
「ドキュメンテーション」

【これまでの保育環境】

撮影日（令和6年11月1日）撮影箇所（戸外・保育室）

写真の説明

【落ち葉】



【落ち葉】

- ・落ちていた葉っぱに興味を持ち、袋に入れたりして持って帰ったりして自然遊びを楽しんでいる。

【見せあい】



【見せあい】

- ・友だちに「こういう動きはどお？」と見せて楽しんでいる。

保育環境による子どもの様子（良かった点、課題点等）

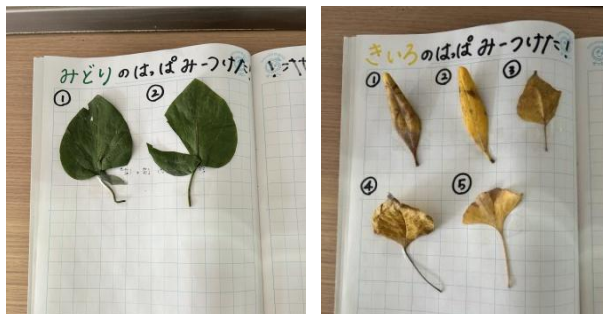
△音楽発表の取り組みの中で、子ども同士で見合いっこをしたりしていたが、自分の姿を見る機会が少なかった。

△葉っぱを集めて袋に入れて持って帰るということだけになってしまっていた。

△課題点として、保育室に文字に関する物が少なかったので、サブスケール16の文字に親しむ環境という点に着目した。

【研修後に見直した保育環境】

撮影日（令和6年11月26日）撮影箇所（保育室、戸外）



写真の説明

【自分達の写真】

- ・自分がどういう表情をしているのか写真で表示して見えるようにした。

【落ち葉集め】

- ・集めた葉っぱを色ごとにノートに貼っていき、何枚集まったか数字を書いた。

保育環境による子どもの変化（良くなった点、課題点等や感想）

【自分達の写真】

- ・掲示する前は、友だちを認める姿は見られていたが、自分のことを褒めたりする姿は見られていなかった。自分の表情を見ることで、なりきっている姿に対して自信を持つ姿や、もっとこうしたい！という意見やアイデアがたくさん聞かれるようになった。

【落ち葉集め】

- ・葉っぱをたくさん集めたり、色んな形や数字に興味を持つ姿がより見られるようになった。数が増えていくことの楽しさを感じたことで、たくさんの葉っぱを集めるとどうなるのかという疑問を持つようになり、たくさんの落ち葉を集めることに興味を持った。それがきっかけで落ち葉のお風呂を楽しむ姿が見られるようになった。

保育環境を見直したことによる感想

○3-1 絵に分かりやすく文字が書いてあり、意味が理解できるという点を意識して、いつもは掲示にイラストをのせて終わっていたが文字を加えて掲示した。その結果、掲示している文字を読もうとしたり、「自分の名前と同じだ！」と、興味を示すようになった。 今後は、5-1 見える文字が絵と結びついて
いるという点において、片付けの表示など今掲示している写真やイラストに文字を加え、自然と興味を持てるようにしていきたい。

【これまでの保育環境】

撮影日（令和6年12月9日）撮影箇所（保育室）



写真の説明

・テープカッター台

素材遊びで使っていた。皆で共有しているため、「そのテープかして」「赤のテープとって」といったやりとりがあった。

片付けは回りの素材を片付けるにとどまり、テープカッター台は置きっぱなしであった。

・階段に数字の表示なしで使っていた。

階段について何段あるなどの会話はなく、段数や高さなどに興味を持つ子どもはほとんどいないように思われた。

階段の色で上りと下りを分けていた。

上っている途中に、一番上まで集中して上がれず柵に足を掛け止まる子どももいた。

保育環境による子どもの様子（良かった点、課題点等）

- ・物の個数を表示することは、ほとんどしていなかった。
- ・日常生活の中に、自然に数字を取り入れられるところはないか考え実践していくことが課題である。
- ・環境を整えていき、子どもの姿が変わってきた後、また次の課題をどのようにして見つけていくかが、新たな課題となった。

【研修後に見直した保育環境】

撮影日（令和6年12月11日）撮影箇所（保育室）



写真の説明

①サブスケール、項目24「日常生活の中の算数」3.2の「保育者が、算数とは直接つながらない場面でも時々算数に関わる言葉を使う」を実践する。

- ・テープカッター台に数字を付けてみる。

②サブスケール4の項目24日常生活の中の算数7.2の「保育者が算数と直接つながらない場面でも、子どもとやりとりするとき、数字を使いながら理由を考えるようにしむける」を実践する。

- ・階段に数字を付けた。

③クリスマスまでの数字を書いたカレンダーを置いてみる。

保育環境による子どもの変化（良くなった点、課題点等や感想）

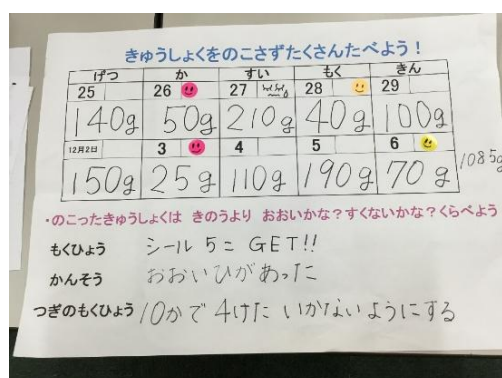
- ・素材遊びの時に「2番のテープをとって！」など数字を付けたことで、呼び名のような形で示すようになったり、テープカッター台が何台あるかが分かり、片付ける時には揃えようとする姿も見られるようになった。研修で伺った幼稚園の階段に数字が貼ってあり、私自身も数字を見ながら上ったので、自園でも数字を付けてみた。数字を数えながら一番上の段まで集中して上ることができた。普段何気なく上がっていた子どもたちも数字に気づいて数えながら上ったり、また別の階段を数えてみたりする姿も見られ、数に対する興味が高まってきたと感じた。

保育環境を見直したことによる感想

- ・自園の教職員と、研修で学び・実践した「数に関する環境設定」を共有したことで、日常生活の中で少しでも多く数に触れられるようにと、クリスマスのカレンダーを準備してみるなど、園全体での意識が高まってきていると感じた。どのような場面でも子どもたちが数に触れ、興味を持てるようにするには保育者が意識して保育環境を工夫することで可能だと感じた。また、試してみたことが評価スケールの中のどの項目にあたり、それぞれの指標に注目して、次に何ができるかを見つけていくことが重要である。

【これまでの保育環境】

撮影日（令和6年12月6日）撮影箇所（3歳児保育室）



写真の説明

- ・サブスケール4 「活動」
- 項目24「日常生活のなかの算数」に注目した。

以前、子どもたちと「給食の残飯の量が日によって違う」という話になり、食育やSDGsにもつなげたいという思いから、残飯の重さを毎日量って、前日と比べて少なかったらお当番さんが表にシールを貼ることにした。

タブレットで前日の残飯の量（重さ）を見比べ「今日の方が少ない（軽い）と思う！」「（量りの目盛りを見て）昨日はここだったね！」などという会話をするようになっていた。

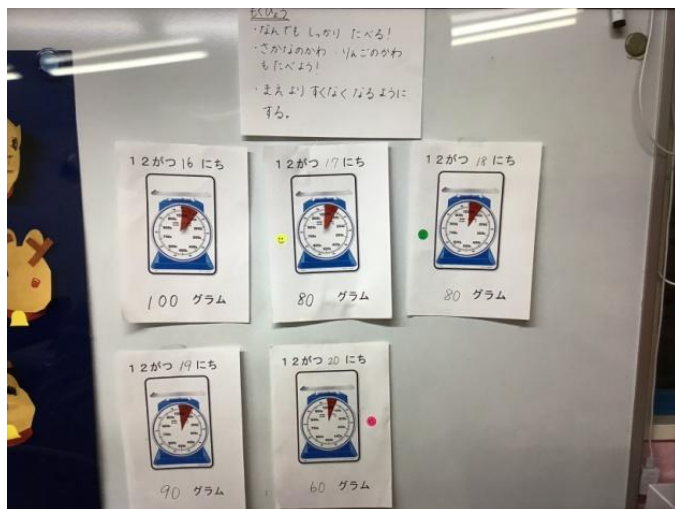
保育者が重さを量り、ホワイトボードに数字を記入して、子どもたちと一緒に1の位から順に指を使って数字の大小を確認する。そして数字が少ない（重さが軽い）方を子どもたちが指をさして確認する。

【保育環境による子供の様子（良かった点、課題点等）】

- ・毎日、前日との比較をし、表に書き込んでいたが他の日との比較をすることができていなかったことが課題点である。
- ・子どもたちから10日間の合計を聞かれ、具体的に「500ミリペットボトル2本分より少し重いよ」と伝えたがわかりやすいように重さを体感できるようにすれば良かった。
- ・果物のりんごは皮付きで、残す子がほとんどだったが、重さを減らすようにと皮も食べる子ができたり、苦手なものは「せんせい、食べられないから残す。」と言っていた子が頑張って食べるようになっていたり、質量（汁物やご飯は重く、サラダなどの葉物野菜は軽い）にも気付いて「多くみえるけれど軽い、少なく見えるけれど重い」と子どもたち同士で話している姿が見られた。

【研修後に見直した保育環境】

撮影日（令和6年12月20日）撮影箇所（3歳児保育室）



写真の説明

・サブスケール4「活動」

項目24「日常生活のなかの算数」に加え、項目25「数字の経験」とサブスケール2「養護」項目8「食事/間食」に注目した。

写真のように量りの絵を用意して、残飯の重さ分を赤い画用紙で表示し、わかりやすくして掲示した。

赤い画用紙は簡単に取りれるようにし、赤い部分を取って子どもたちで比べられるようにした。

また、絵の下に数字で重さを書くようにし、数字でも赤い画用紙でもわかるようにした。

【保育環境による子供の変化（良くなった点、課題点等や感想）】

- ・前回と違い、赤い画用紙を子どもたちで取り外し、前日とだけでなく違う日と比較するようになった。
- ・前回に引き続き、残さず食べようという気持ちが強くなり、たくさん食べられるようになっていった。
- ・この取組を通して、他クラスの保育者や給食室の方との会話も増え、すすんで報告する子供が増えた。
- ・この5日間は重さに大きな差がなかったため、赤い部分を取り外して比較しないと少しわかりにくかったように思うのでまた違った方法を考え、改善する必要がある。

【保育環境を見直したことによる感想】

- ・数字だけの表と違って赤い部分を取り外して比較できるようにしたことで、具体的に一番多い日・少ない日・同じ日など子どもたちで話し合えるようになった。
- ・物の重さに興味を示し、「色々なものを測ってみたい」と意見がでたので実際に計量し、比較したり掲示したり、また違った保育に活かしていきたい。

3 成果と課題

保育環境評価スケールを用いて保育を見直すことは、法人理念に沿った普段の保育を一定の尺度で測り、保育環境の意味を保育者同士で考え直す契機となった。そのため、幼児の動き・気付きをより良くするために、保育環境を変え、掲示物の変更、また園全体の取組を変えていく機会にもなった。課題点は、保育環境評価スケールの全てのサブスケールを見直すことは、園全体で考える問題となる。今回は、個々の保育者の結果報告であるが、今後、園全体の取組として本スケールを生かすことが課題である。

【研究委員所属園】

からたち幼稚園	慈愛幼稚園	園田慈愛幼稚園	認定こども園立花愛の園幼稚園	認定こども園七松幼稚園
認定こども園難波愛の園幼稚園	幼保連携型認定こども園はまようちえん	認定こども園武庫愛の園幼稚園	みこころ幼稚園	武庫からたち幼稚園
武庫東からたち幼稚園	明和幼稚園			